

西河技術経営塾研究科前期 講義録 SH07

作成：渋谷 加津美

日時：平成 29 年（2017 年） 10 月 25 日（木）午前 10 時 30 分 ～ 午前 12 時 00 分

場所：アーネスト育成財団内会議室（渋谷区代々木 1-57-2 ドルミ代々木 704 号）

講師：小平和一郎

研究生：渋谷加津美

講義名：(SH06) ¹「第 5 章戦略の基礎と技術経営の担当部のストーリーを決定する」（6）

提出資料：講師を担当する第 5 章の講義資料 P31～45 の講義原稿

講義内容

1. 概要

第 7 回目（SH07）の講義（研修）を行った。内容は、以下の通り。

日本的グローバル化経営実践のすすめ（失われた 30 年を取り戻せ）アーネスト育成第 7 期編集を参考資料に再度グローバル化の意義について再認識を行った。

理解できない点があるのであれば、課題点・疑問点が明確になるように読み下し本研修へ提示し議論すること。

2. 研究内容

（1）概要

資料「日本的グローバル化経営実践のすすめ」のグローバル化の意義について質疑形式で行った。湯之上隆著「日本半導体産業復活への提言」より日本企業敗北の原因を研究する。

（2）日本半導体産業 DRAM 撤退の原因

世界市場で 8 割のシェアを誇っていた DRAM からの撤退は、「コストで負けた」のではなく、韓国、台湾、米国マイクンの PC 用 DRAM を安価に大量生産する「破壊的技術」に駆逐されたことによる。日本の黄金時代は、大型コンピュータ用の DRAM で築かれ 25 年保障の DRAM を生産できるのは日本だけであった。しかし、1990 年代に入るとコンピュータ業界に変化が起き PC 市場になった。日本企業は、25 年保障の高品質 DRAM を作り続け敗北してしまった。クリステンセンのイノベーションの法則で言えば、日本は、韓国、台湾および米国企業の安く大量生産する「高度な破壊的技術」に駆逐されたのである。

「破壊的技術」について自身の実体験で講義できるように本講演内容を研究する。

（3）コトラーのマーケティング 4.0 について

5 A フレームワークは、単純なモデルだがデジタル時代のマーケティングを象徴したフレームワークになっている。A5 段階：推奨 (ADVOCATE) 段階に進めさせることを究極の目標としている。有効なツールとなると考えるので研究すること。

3. 次回までの宿題

- ・ **第 1 2 章講義に向けて** : 反省と課題の整理と次回への取組方針について

4. 次回日程

（1）**次回日程** 11 月 16 日（木）

（2）**参考資料**

研究の参考資料として、下記を選定した。

『技術力から見た日本半導体産業の国際競争力』湯之上 隆著 以上

¹（注）SH01：SH とは、Shibuya のこと。01 は、1 回目。第 3 回は、SH03 となる。